

## 復刻版刊行にあたって

このたび、上高井教育会創立百三十年記念事業の一環といたしまして、「上高井教育会報」の復刻版（合冊版）第二号が企画され刊行されました。ご苦労いただきました編集委員会の皆様に感謝し、会員の皆様と共に喜びたいと思います。

信濃教育第一五四八号の特集「わがふるさとの教育を支えた人々」の中で、宮川孝男先生の業績が紹介されております（涌井二夫先生ご執筆）。その中で、宮川先生がご長男に、「富士山はなぜ高いか知っているか」と問い、「裾野が広いからじゃ」と答えた逸話や、「乗り物を運転するときには、バックミラーで確認しなければ前に進めないだろう。だから人は前に進むときには、歴史を知らなければいけない。歴史を振り返りながら前に進んでいくことが大切だ」とお話しされたことなども紹介されております。

上高井教育会は、「子どもたちに力をつけるよい教育をしたい」「自分を高めたい。仲間と学び合いたい」という二つの願いのもとに発足し、百三十年の歴史を積み重ねてまいりました。その歩みの中で、研究委員会が担ってきた授業力の向上だけではなく、同好会や講演会を通して、教師としての裾野も広げてまいりました。復刻版は、その過程と内容を知ることのできる貴重な財産であります。

また、少子高齢化や高度情報化など、求めてもモデルのない時代の中で、私たちは、「何を目指し、何を成すべきか」を自らの力で見出していかなばならない状況に置かれております。そんな現代であるからこそ、歴史を振り返りながら、新しい時代の上高井教育のあり方を考えなくてはならないと思います。復刻版は、歴史を振り返るための財産でもあります。

上高井教育会創立百周年記念事業として、教育会館の会議室に掲げられた書「不易流行」は、私たちの心の拠り所ではありますが、この不易流行は、俳聖・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅の中で見出した俳諧理念の一つであります。「俳句の本質を学んでから、新しい方向を目指す」ということでもあります。この合冊版を通して、教育の本質を学び、上高井教育会の先輩各位が、困難を乗り越えて新たな道を切り開いてきたように、これからの上高井教育を日々新たなものにしてまいりましょう。

最後になりましたが、百三十年に渡り、上高井教育を充実・発展させ、上高井教育会を支えていただきました諸先輩の皆様方に感謝をし、発行のご挨拶といたします。

上高井教育会理事長 岡 田 哲 夫